

モリアオガエルを守る

モリアオガエルは、日本にしかないカエルで、水面上のせり出した木の枝などに泡で包まれた卵塊を産みつけます。一週間から二週間たつと、卵塊の中で^①ふ化してオタマジャクシになって雨を待ち、雨で溶けくずれる泡とともに水面へ落下します。しかし、近年、モリアオガエルは、各地でその数が減っています。それは、生息地の里山を人間が開発してこわしたため環境が変化し、水面上に木の枝がせり出すような湖沼が少なくなつたからです。また、農薬の使用もその原因の一つです。

モリアオガエルは、^②絶滅危惧種に指定されています。

上豊松の中間谷に住む井上未枝さん^{まつえ}は、身のまわりの動植物をとても大切にする人でした。この辺りには、昔からモリアオガエルが生息していたのですが、昔に比べ、その姿を見ることも少なくなっていました。

「見た目は昔と変わらんけど、この里山も水や空気がよごれて、モリアオガエルも住めん環境になってしもうたんかなあ。」と井上さんは、さみしそうにつぶやきました。



そんなある日（平成十三年六月）、井上さんは、田んぼのそばの草むらでソフトボールより少し大きい白い泡のかたまりを二個見つけました。

（これはもしかしてモリアオガエルの卵では・・・）

次の年も同じような場所で、今度は三個の白い泡の固まりを発見しました。

そこで、中学校の理科の先生に相談し、見てもらいました。

「これは、確かにモリアオガエルの卵ですよ。」

と言われ、

「やっぱりそうじゃったんじゃ。まだモリアオガエルはこのあたりにいくらかおったんじゃ。昔の自然条件が残っていたんじゃ。よし、このまま放っておいたらいけん。守ってやらんと。」

と言って、急いで卵の下の水たまりを深くほって広げました。

卵塊を見つけた日から井上さんは、毎日観察をして、日記に卵塊の数を書き記しました。また、毎年、六月の中頃には、モリアオガエルが水たまりのちようど上で卵を産めるように^③木の枝打ちをしたり、モリアオガエルの^④天敵であるヘビが近づかないようにしたりしました。



この地域の世話役である佐藤さんも、以前から地域の環境の変化に不安を抱いておられたので、そんな井上さんの様子を知り、「みんなで里山の自然環境を守り育てようじゃないか。」と地域の人に呼びかけました。

地域の人たちも賛同し、さつそくみんなで草刈りや溝のそうじなどを始めました。また、稲を育てるのに、きつい農薬でなく、安全で安心な物を使うようにしました。

すると、次の年、その地域で見られるホタルの数が増え、モリアオガエルの声も多く聞けるようになりました。佐藤さんは、うれしそうに、

「ホタルが増えたということは、川の水がきれいになったということじゃ。」
と言いました。井上さんは、

「この前、日記を見たら、前よりモリアオガエルの卵の数がぐんと増えた。こんな環境なら、私も長生きできそうですわ。」
と笑顔で言いました。

しかし、それから何年か後、井上さんは、以前手術して治したはずの病気が再発してしまいました。医者からも無理をしないように言われましたが、井上さんは、山や川や田畑の世話を一生懸命に続けました。

その後、井上さんの病状は悪化し、あと数年生きられるかどうかという状態になり、自分の家のまわりの木の枝打ちや草刈りをする体力もなくなっていました。それでも、モリアオガエルの観察や世話は毎日欠かしませんでした。それどころ前にも増してモリアオガエルを守ることに一生懸命になりました。

井上さんは、佐藤さんたち地域の人の協力を得て、モリアオガエルが卵を産む時期になると木の枝打ちをしたり、その下にみぞを作ったりしました。さらに、井上さんは、「みなさんのこれからの勉強に役立てていただければ何よりです。」

と小学校の子どもたちに見学に来るよう知らせてくださり、佐藤さんといっしょに説明もしてくださいました。また、自宅の周辺に昔から生えていた山野草に名札をつけて、子どもたちに教えてくださいました。

「きれいでしょう。こんな花やモリアオガエルが毎年見られるように守っていかんとね・・・それが、わたしのつとめです。」

井上さんは、子どもたちに優しく語りかけました。

しかし、平成二十一年一月、モリアオガエルの保護・観察に努力された井上未枝さんは、その年のモリアオガエルの鳴き声を聞くことなく亡くなられました。

六月になると、小学校の子どもたちがモリアオガエルの見学にやって来ました。井上さんの姿はありませんが、その家の庭や森は地域の人たちの力を借りてきれいに草が刈られ、モリアオガエルの卵塊の下には、広い水たまりが確保されています。子どもたちが観察しやすいようにあぜ道まで作られていました。井上さんが大事に育てた山野草もさいています。

佐藤さんが、子どもたちにモリアオガエルについて説明して下さっているときのことです。井上さんの家の雨どいをふと見ると、大きなモリアオガエルが、今までに見たこともないほど美しい緑にかがやいていました。

【注】

(1) 卵からかえること。すなわち、卵を産む生物の発生で、卵から幼体がでてくること。

(2) 動植物のなかで、一個体も生存しなくなった状態を「絶滅」したといい、その恐れが最も大きな状態の種や亜種のこと。

(3) 土地に生えているままの樹木の枯れ枝や生枝の一部を取り除くこと。

(4) ある特定の種の動物の捕食者、寄生者として、それを殺したり増殖をはばむ動物のこと。